比嘉のパツカ・ショウガツ（二十日正月）

新垣　則子／佐藤　宣子／本永　清

Ⅰ．旧暦の１月 20 日、宮古島市城辺の比嘉集落（世帯数 143 戸、人口 321 名）では、自治会主催で恒例のパツカ・ショウガツ（patsïka-ʃo:gatsï 二十日正月）という行事がとり行われる（**写真①**）。舞台は主に比嘉地域総合施設、かつての公民館である。当日の演目のひとつ「比嘉の獅子舞い」は、宮古島市指定の無形民俗文化財でもある。

写真①比嘉の獅子舞（宮古島市無形文化財）

今年（2016）は第 103 回目のパツカ・ショウガツということで、新暦ではその日が２月 27 日に当たっていた。以下、当日の現地調査にもとづいて、この行事の概容を紹介する。

Ⅱ．パツカ・ショウガツの由来については、『比嘉部落沿革誌（第一巻）』（1985 年刊）の中にその記録が見える。同書ではまず、1908（明治 41）年に「士族平民の争い」があったことを次のように記す。

> 当時は封建時代で平民より士族が優位な時代であった。その頃平民は八十余所帯、士族は二十余所帯（加冶道を含む）、平民は字有山林の一部（サバゾゥク山）の木を売却して、その代金を平民だけで分配したので、士族は之に抗議した。しかし平民は松木は平民が植えたものであるから平民が自由に処分しても構わないと言って士族に反論し、遂に訴訟事件となった。その結果、第一審判決は士族が勝訴した。
> 平民は、之に不服し地方裁判に上訴し、それが長引き三年かかっても解決されないので、このままでは比嘉字は乱れて仕舞うということで、双方話し合い、歩み寄って和解した。

1908 年といえば、町村制施行の年である。これにより平良間切比嘉村は、城辺村字比嘉に改称された。時は明治、あの琉球処分以降、宮古でも土地整理事業、税制改革などが行われているが、そうした急激な時代の変化は、従来の身分関係であった百姓と士族との間に何らかの感情的対立を生んだものと思われる。続いて同書は、1913 年の出来事として「二十日正月」のことを次のように記す。

写真②マーニの葉で草冠を作る。

写真③草冠を被る少年

明治四十一年士族平民の争いが生じその後、字内は乱れていたが、双方が理解し漸く明治四十五年和解したので、それを記念して旧暦の一月二十日を二十日正月と称し（ウイカ御嶽とツカサ御嶽に参拝し、無病息災・豊年祈願をした後、獅子舞、競馬、闘牛、角力大会、村芝居等を催す）盛大に祝賀会行事を行っていた。然るに太平洋戦争によって一時中断されていたが、昭和三十年頃部落の老人や中堅層の有志等が話し合って復活した。

字有山林の一部の松木を平民たちが売却し、その代金を平民だけで分配したため、これに士族が反発、訴訟にまで発展したが、３年後に和解が成立した。その和解を記念してパツカ・ショウガツが始まった。――これがこの行事の由来である。ところで、この行事は現在、村人総出で、比嘉集落の繁栄と村人の無病息災、畑の豊作などを祈願して行われる。当日は、正午頃から神女２人による神事があり、その終了を待って自治会主催のセレモニーと祝賀会が開かれる。

Ⅲ．当日の午前 10 時頃、比嘉の自治会役員、民俗芸能保存委員会のメンバーたちが、比嘉地域総合施設に集合する。そして、みんなで手分けして、当日のセレモニーと祝賀会の準備をする。その内容は次の通り。

１．施設の中の建物を中心に、中庭や広場を清掃する。
２．ホールの舞台の上に、雌雄の獅子頭とその衣裳を飾る。
３．ホールにテーブルとイスを並べて、宴席を作る。
４．宴席のテーブルの上には、酒と折り詰めを並べる。
５．セレモニーの際に、村人たちが草冠を被るが、その草冠をマーニ（ma:ni 和名：クロツグ）の葉で作る。（**写真②、写真③**）

６．その他。

Ⅳ．一方、比嘉の公的神女ツカサムマ（tsïkasa-mma 司）とウサギザス（usagi-dzasï 祈願女）の２人が、正午頃から村の主要な２つの拝所、先の『比嘉部落沿革誌』の中に出てくるツカサ御嶽とウイカ（uika 上所＝番所）御嶽を巡拝する。両御嶽の祭神に、パツカ・ショウガツの案内をして、その成功を祈願するためだという。

１．ツカサ御嶽での儀礼

御嶽は出入口を南に向ける。中に入って奥へ進むとコンクリート建ての祭祀小屋がある（**写真④**）。小屋の中に、北壁に接してイビ（ibi 威部＝祭壇）を設ける。イビの上に、大小の霊石を１基ずつ安置する。向かって左側の大きな霊石は、主神ツカサガム（tsïkasa-gam）を祭る目印とされる。右側の小さな霊石は、そうした性格のものではなく、ここを通してルーグヌカム（ru:gu-nu-kam 竜宮の神）を遥拝するという。前者の前には大香炉、後者の前には小香炉をそれぞれ併置する。両神女の行動及び儀礼の内容は次の通り。

(1) ウサギザスが、イビの周辺を清掃する。

(2) ウサギザスが平香を取り出し、まず主神ツカサガムの大香炉に焚く。次に、ルーグヌカムの小香炉には、平香を火をつけないで横にして置く。

※主神ツカサガムの大香炉に焚く平香の数は、特に決まっていない。ただし、ルーグヌカムの小香炉に置く平香の数は、大香炉のそれより若干少ない。

写真④ツカサ御嶽

※ルーグヌカムの小香炉には、火をつけないで平香を横にして置く。これをススダキ（ssu-dakï 白焚き）という。

(3) ツカサムマが、両香炉の前に、それぞれ白紙を敷いてから、その上に供物をいろいろと飾る。

①ツカサガムの大香炉の前

酒（コップ２）、水（コップ１）、お茶（コップ１）、洗米（紙皿１）、お菓子（紙皿１）、塩＋煮干し（紙皿１）。

※塩と煮干しは、海の幸である。２品は合わせて、紙皿１枚にのせる。以下、同じ。

②ルーグヌカムの小香炉の前

酒(コップ１)、お茶（コップ１）、洗米（紙皿１）、お菓子（紙皿１）、塩＋煮干し（紙皿１）。

※ルーグヌカムには、水を供えない習わしである。

(4) ウサギザスが、両香炉を前にして、一言二言祝詞を唱えて祈願する。ツカサムマがその後について祈願する。(**写真⑤**)

(5) 両神女が祈願を終えて、ツカサ御嶽を出る。

写真⑤ツカサガムに拝む。

２．ウイカ御嶽での儀礼

御嶽は出入口を北に向ける。中に入ると祭場が開けており、一角にコンクリートでイビを設けてある。イビの上に霊石を２基安置し、それぞれに香炉も併置する。２基の霊石のうち、向かって右側が主神ウイカヌス（uika-nusï 上所＝番所の主）を祭る目印とされる。左側の霊石は、その祭神名、あるいは性格が不明だという。両神女の行動及び儀礼の内容は次の通り。

写真⑥イビに飾った供物

(1) ウサギザスが、イビの周辺を清掃する。

(2) ウサギザスが平香を取り出し、まず主神ウイカヌスの香炉に焚く。次に、祭神名不明の香炉に、平香を火をつけないで置く。

(3) ツカサムマが、両香炉の前に、それぞれ白紙を敷いてから、その上に供物をいろいろと飾る。(**写真⑥**)

①ウイカヌスの香炉の前

酒（コップ２）、水（コップ１）、お茶（コップ１）、洗米（紙皿１）、お菓子（紙皿１）、

塩＋煮干し（紙皿１）。

②祭神名不明の香炉の前

酒(コップ１)、お茶（コップ１)、洗米（紙皿１)、お菓子（紙皿１)、塩＋煮干し（紙皿１)。

(4) ウサギザスが、両香炉を前にして、一言二言祝詞を唱えて祈願する。ツカサムマがその後について祈願する。**（写真⑦）**

(5) 両神女が祈願を終えて、ウイカ御嶽を出る。

写真⑦ウイカ御嶽での祈願

写真⑧ウカマガムに拝む。

３．比嘉地域総合施設での儀礼

ツカサ御嶽とウイカ御嶽をそれぞれ巡拝すると、両神女は祝賀会の会場となる比嘉地域総合施設へ直行する。当施設は、敷地と中の建物、門の向かいの広場から成る。当施設には、建物の中に炊事場を設けるが、流し台に接した出窓の上に香炉を１個安置して、ウカマガム（ukama-gam 竈神）を祭る（**写真⑧**)。両神女の行動及び儀礼の内容は次の通り。

(1) ウサギザスが、香炉の周りを片づける。

(2) ウサギザスが、香炉に平香を焚く。

(3) ツカサムマが、香炉の前に酒と洗米を飾る。

※台所の香炉の前には、水と塩を常時供えてあるので、ここで新たに２品を供えることはしないという。ただし、当日は２頭の獅子が魔除けのため儀礼の中に登場するということで、ウサギザスその持参した塩を袋よりつまんで、お供えの水の中に入れた。これは魔除けの塩という。

(4) ウサギザスが、一言二言祝詞を唱えて祈願する。ツカサムマがその後について祈願する。

次に、両神女は屋外へ出ると、構内の東隅に設けた拝所トゥクル（tukuru　所＝敷地）へ行く。ここには外塀に接して、コンクリート造りの小さなイビを設け、その上に霊石を１基立てる。霊石はトゥクルの神を祭る目印のようである。神女の行動及び儀礼の内容は次の通り。

写真⑨トゥクルに拝む。

(1) ウサギザスが、イビの周りを清掃する。
(2) ウサギザスが、イビに平香を焚く。
(3) ツカサムマが、イビに供物をいろいろと飾る。
　酒（コップ２）、水（コップ１）、お茶（コップ１）、洗米（紙皿１）、お菓子（紙皿１）、塩＋煮干し（紙皿１）。
(4) ウサギザスが、一言二言祝詞を唱えて祈願する。ツカサムマがその後について祈願する。**（写真⑨）**
(5) 両神女が祈願を終えて、拝所トゥクルを後にする。

写真⑩自治会長から酒を頂く。

そのあと、両神女は再び建物の中へ入るが、ホールの舞台の上には、雌雄２頭の獅子頭とその衣装がそれぞれ対にして飾ってある。ツカサムマがまず、各獅子頭の大きな口の中に酒と塩を注ぎ入れて、浄めを行う。長老の一人が、２頭の獅子役を務める男性４人と、各獅子の回し役を務める男性（シーシャ・アラシャ ʃiːʃaː-araʃa という）２人に、それぞれ酒と塩を少しずつ与える（**写真⑩**）。傍で、その様子をウサギザスが見守る。

Ｖ．両神女が当日の祈願を終わると、比嘉地域総合施設の門前では、すでにその場に参集した村人たちによって、まず開会のセレモニーが行われる。セレモニーでは全員、例のマーニの葉で作った草冠を被る。当日、セレモニーは次の順序で行われた。

1．パツカ・ショウガツの由来と意義について、民俗芸能保存会の会長が、村人に解説して聞かせる。
2．自治会長が主催者あいさつをする。
3．民俗芸能保存会の副会長が、この一年間に目出度い出来事があった民家の名を報告する。今年は、住居の新築こそなかったものの、大型トラック１台を購入した民家と、トラクターとハーベスターをそろえて購入した民家があった。

写真⑪トラックの安全運転を祈願して、浄めを行う。

4．厄払いに出かける２頭の獅子の順路について、民俗芸能保存会の１人が説明する。
5．２人のシーシャ・アラシャに先導されて、２頭の獅子がまず、構内の建物を反時計回りに３周して厄払いをする。その後から、三味線、横笛、太鼓、ホラ貝、鉦鼓を持つ者たちが各自、その楽器を奏して、一般参加者とともに続く。
6．門前の広場へ２頭の獅子が移動し、各楽器の演奏の中、無形民俗文化財の獅子舞を演ずる。２頭の獅子を囲んで、一般参加者が、これは民俗芸能のマキブドゥイ（makï-buduï 巻き踊り）やクイチャーブドゥイ（kuitʃa:-buduï 声合わせ踊り）を反時計回りに踊って、２頭の獅子を囃し立てる。
7．２頭の獅子が広場を出発し、比嘉集落の外縁を反時計回りに一周してくる。これは集落全体の厄払いということで、獅子の後には、各楽器を持つ者、自治会役員など多くの村人たちが随行する。
8．続いて２頭の獅子は、先の目出度いことがあった２軒の民家をそれぞれ訪ねて、新購入の大型トラック、トラックターとハーベスターの清めを行う。これは随行者たちが見守る中、各楽器の演奏に合わせて、２頭の獅子が、例えば大型トラックの周りを反時計回りに３周するというものである（**写真⑪**）。２軒の民家では、酒と御馳走を準備して、随行した人たちに振る舞う。
9．獅子２頭とそれに随行した人たちが、比嘉地域総合施設に戻って来る。そのあと村人たちは、門前の広場に集って円陣を作り、２頭の獅子を交えて、例のマキブドゥイとクイチャーブドゥイを賑やかに踊る。

Ⅵ. セレモニーが終わると、草冠を脱いだ村人たちがそろって、建物の中へ入って宴席に着く。当日、祝賀会は次のプログラムで催された。その内容はじつに多彩である。このプログラムには、比嘉集落の現リーダーたちが抱く村創りの理念と、加えて村人たちの社会通念みたいなものが映し出されているように見える。

１．開会のことば	会計	篠原　雄
２．祝賀会あいさつ	自治会長	砂川雅一郎
３．乾杯の音頭	顧問代表	前里財徳
４．余興	子供育成会	赤嶺杏果、他
５．激励のことば	宮古島市教育長	宮國　博
	城辺地域づくり協議会会長	饒平名建次
６．乾杯の音頭	宮古島市議会議員	下地明
７．比嘉部落の歴史と文化	自治会長	砂川雅一郎
８．乾杯の音頭	宮古島市議会議員	下地　智
９．歌謡ショー	宮古島出身歌手	宮　京子
10．乾杯の音頭	西城小学校長	小谷　優
	西城中学校長	砂川弘康
11．民謡ショー	在平良比嘉郷友会	伊川栄吉
12．高腰城跡関連経過報告	事務局長	前里宣克
13．乾杯の音頭	城辺公民館協議会長	砂川雅一郎（代役）
14．カラオケ	自由参加	当日受付
15．オトーリ	各団体	当日指名
16．閉会のことば	会計	篠原　雄

Ⅶ. 宮古島市指定の無形民俗文化財「比嘉の獅子舞い」は、今日多くの人たちの努力と協によって、保存・継承されている。今回、その役割分担表がセレモニーの場で配布されていた。今後何かの参考資料として役立つこともあろう。ここに掲げておく。

１．全体統括	民俗芸能保存会会長	比嘉幹男
２．統括補佐	同副会長	前里正人

３．獅子の演舞

(1)獅子舞の先導役（シーシャ・アラシャ）

伊良部浩二、砂川博昭

(2)獅子の振舞役（頭、尾）

奥平茂、前里正人、下地幹、下地智

(3)三味線

下地明、砂川友作

(4)横笛

比嘉幹男、平良勝美

(5)太鼓

金城実、子供育成会

(6)ほら貝

平良和彦、子ども会

(7)鉦鼓

伊良部浩一、他

(8)歌、クイチャー、踊り指導

砂川清治

(9)クイチャー、踊り

民俗芸能保存会、青年会、女性部、子ども会、高腰老人クラブ、参加者全員

(10)ビデオ、スナップ写真

広報部：前里正人、砂川博昭

Ⅷ. なお、当日会場には、個人や企業の寄付で、１枚の横幕が掲げられ、幟も数本立っていた。横幕や幟には、比嘉自治会として今後ぜひ実現したい課題がいろいろと書いてあったが、これは宮古島市への要請事項でもあろう。記念に、書き留めておく。

○総合博物館を高腰城跡隣地に建設しよう（下地邦広より１本寄贈）

○文化財の保護と伝統文化の充実強化（農業生産法人比嘉産業より１本、先嶋産業株式会社、ホテルサザンコースト宮古島の連名で１本、それぞれ寄贈）

○高腰城跡に子供の国広場の早期実現（有限会社南開建設より１本寄贈）

○高腰城跡関連で「子供の国」を建設しよう（城辺中央クリニックより１本寄贈）

○高腰城跡の復元と周辺整備事業を早期に実現しよう（先嶋建設株式会社より１本寄贈）

○旧城辺町ふるさと文化村基本計画を早期に実施しよう（城辺運輸より１本寄贈）

〈謝　辞〉今回の現地調査では、ツカサムマを務める高里千鶴子さん、ウサギザスを務める与那覇悦子さんのお二人に、大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げますとともに、比嘉集落のますますのご発展・ご繁栄を祈念申し上げます。

（ビデオ撮影：新垣則子／写真撮影：佐藤宣子／文字記録・文責：本永清）